

新型クロスオーバー CX-3登場

1.5ℓクリーンディーゼルエンジンでMT・4WDも設定

全車エコカー減税・
グリーン税制対象
25km/ℓ
※JC08モード燃費(XD 2WD MT車)



視認性を重視したメーター



アクティブ・ドライビング・ディスプレイ



フレキシブルに使える荷室



「Heads-up Cockpit」コンセプトで設計

マツダが新たに投入したCX-3は従来のジャンルに収まりきらない、全く新しいコンセプトで開発されたクロスオーバー・ピークルだ。街中でも取り回しやすいコンパクトなボディ、存在感と走りを予感させるスタイル、低燃費と走行性能を高いレベルで両立させたクリーンディーゼルエンジンに4WDシステムなど、見どころは盛りだくさん。また、走りを楽しめる要素をふんだんに盛り込む一方で、先進安全技術i-アクティブセンスによる全方位の安全性能も備えるなど、次世代のスタンダードを提唱するにふさわしいクルマに仕上がっている。スカイアクティブテクノロジーを駆使し、コンパクトなボディに最新の技術と感性あふれるファクターを詰め込んだCX-3の可能性に迫ってみよう。



発行所
日刊自動車新聞社
東京都港区芝大門1丁目10番11号
芝大門センタービル3階
電話 東京 (03) 5777-2351 代表

マツダ

CX-3

特集号

1回の給油(軽油)で
約**1000km**
走行も可能に!
(計算上の数値です)

CX-3 XD Touring L Package(手前)写真はプロトタイプ
文/田畑 修(モータージャーナリスト) 写真/折原 弘之

次の時代のスタンダードを創り出す



スカイアクティブ テクノロジーについて

マツダが次世代テクノロジーとして打ち出したスカイアクティブテクノロジーはエンジン、シャシーはもちろん、ボディ構造、トランスミッションなどクルマに関わるあらゆる分野のレベルを高めていく方向性を示したものだ。

従来の常識を打ち破り、新たな挑戦を続けることで多くのブレイクスルーを果たしてきたが、CX-3にもそのノウハウが存分に注ぎ込まれ、さらに新たな革新技術も投入。次世代のクロスオーバーにふさわしい出来ばえを見せている。エンジン、シャシー、ボディを高い次元でバランスさせ、あらゆるシーンで「人馬一体」の走りを味わえるCX-3。スカイアクティブテクノロジーの真価を体感できるモデルといえるだろう。



グレード紹介



基本グレードのXD(クロスディー)に加え、XD ツーリング、XD ツーリングLパッケージの3グレードが用意されるCX-3。

XDでも十分満足できるクオリティを確保しているが、XD ツーリングではシート素材に合成皮革が使われ、LEDヘッドランプ、18インチアルミホイールなどを標準装備。さらにXD ツーリングLパッケージではシートが本革ビュアホワイト/ラックスエードブラックのツートーンとなり、より質感を高めている。装備の違いを吟味しながら、自分に合ったグレードを見つけていくのも楽しい時間だろう。



MAZDA CX-3 主要諸元表

ボディタイプ	ステーションワゴン							
	XD				XD Touring / XD Touring L Package			
駆動方式	2WD(FF)		4WD		2WD(FF)		4WD	
エンジンタイプ	SKYACTIV-D1.5							
トランスミッション	6EC-AT	6MT	6EC-AT	6MT	6EC-AT	6MT	6EC-AT	6MT
全長 / 全幅 / 全高(mm)	4,275/1,765/1,550							
ホイールベース(mm)	2,570							
トレッド 前 / 後(mm)	1,525/1,520							
室内寸法 長さ / 幅 / 高さ(mm)	1,810/1,435/1,210							
車両重量(kg)	1,260	1,240	1,330	1,300	1,260	1,240	1,330	1,300
i-ELOOP 装着車	—				1,270	—	1,340	—
最低地上高(mm)	160							
最小回転半径(m)	5.3							
乗車定員(名)	5							
エンジン型式	S5-DPTS型							
i-ELOOP 装着車	—				S5-DPTR型	—	S5-DPTR型	—
種類	水冷直列4気筒 DOHC16/バルブ直噴ターボ							
エンジン総排気量(cc)	1,498							
最高出力(kW<PS>/rpm)	77<105>/4,000							
最大トルク(N・m<kgf・m>/rpm)	270<27.5>/1,600 - 2,500							
JC08 モード走行燃料消費率(km/ℓ)	23.0	25.0	21.0	23.4	23.0	25.0	21.0	23.4
i-ELOOP 装着車	—				23.2	—	21.2	—
使用燃料種類 / 燃料タンク容量(ℓ)	軽油 / 48		軽油 / 44		軽油 / 48		軽油 / 44	
ステアリング	ラック&ピニオン式							
サスペンション (前 / 後)	マクファーソンストラット式 / トーションビーム式							
ブレーキ (前 / 後)	ベンチレーテッドディスク / ディスク							

メーカーの資料を基に作成していますが、変更される場合があります。詳しくは販売店にお問い合わせください



最新の「魂動」(こどう)による美しさと先鋭の追求



ひと目でマツダ車と分かるフロントビュー



力強いリアビュー



プロポーションと生命感の深化を目指したエクステリアデザイン



シンプルで鋭いヘッドランプ



7本のフィンを連ねるフロントグリル



18インチアルミホイール

エクステリアデザイン

停まっているときでも躍動感を失わない「魂動デザイン」は一段と完成度を増し、その特徴のひとつであるフロントのシグネチャーウィングとフロントグリルのバランスのよさが多くの人を魅了する。夜間点灯時、導光技術によりドラマチックなラインを描くヘッドランプおよびテールランプ回りのデザインも見逃せない。短い前後オーバーハングが生み出す、足をしっかり踏ん張ったフォルムが際立ち、ボディサイドに目をやるとリアに向かって颯爽と流れるウエストラインが躍動感を強調。ホイールアーチの樹脂モールも無骨さは感じさせず、さりげなく SUV 的なイメージを醸し出している。コンパクトながら存在感を見せる CX-3 のデザインの秀逸さは誰もが認めるところだろう。



前後席で会話しやすい空間レイアウトを実現



ステッチで上質感を表現



ドアトリム



運転に集中できるコクピット



こだわりのデザイン



7インチセンターディスプレイ

上質なインテリアデザイン

クラスを超えた高い質感で仕上げられたインテリアも CX-3 の大きな魅力。ドライバーを中心にメーター類やスイッチ類、ディスプレイ画面などをまとめたレイアウトの秀逸さもさることながら、素材感を生かした触感や造形が室内の雰囲気演出。ソフト素材を巧みに配して高級感を持たせる一方で、金属的な硬いイメージのパーツや加飾を効果的に使ってシャープな印象を高めている。シートは XD および XD ツーリングはブラックを基調にクールなイメージでまとめ、XD ツーリング L パッケージではビュアホワイトの本革素材とブラックのラックスエードを組み合わせ、高い質感とスポーティ感を両立。細部の素材にもこだわり、どのグレードでも満足度の高い仕上げがなされている。

運動性能の本質を極めた人馬一体の走り

Engineer's Voice

マツダ商品本部主査
富山 道雄さん



CX-3 では、都会からアウトドアまで、どんな場所やシーンでも創造的なライフスタイルをサポートするクルマづくりに挑戦しました。ショールームではまずクルマに乗り込んでいただき、着座位置とスムーズな乗り降りを感じていただきたいと思います。とくに女性にはアカデミー賞のレッドカーペットに降り立つ女優のイメージで乗り降りしていただきたい。試乗では10メートル走れば、ディーゼルエンジンの力強さと静かさを味わうことができます。ステアリングをきれば、リニアな操作性などによって、自然と笑顔になっていただけるものと信じています。

安全性能

全方向の安全性能を備えた CX-3。前席およびサイドエアバッグは全グレードに標準装備され、衝突時のエネルギーを効率的に分散するスカイアクティブ・ボディはキャビンの変形を最小限に抑えて乗員を保護。ボンネットおよびフロントバンパーの衝撃吸収能力を高めることで、歩行者保護性能もしっかり確保している。スマート・ブレーキ・サポートをはじめ、低速走行時に衝突被害軽減ブレーキなどを作動させるスマート・シティ・ブレーキ・サポート、車線変更時などの安全性を高めるブラインド・スポット・モニタリング、車線逸脱警報システムなど最新のアクティブセーフティ機構も充実。

静粛性-ナチュラルサウンドスモウザー

従来のディーゼルエンジンに比べて振動、ノイズともかなり低いレベルに保たれているマツダのクリーンディーゼルだが、さらなる静粛性を求めて CX-3 では新たなテクノロジーが投入された。メーカーオプション設定の「ナチュラル・サウンド・スモウザー」は、エンジン内部のピストンピンにダイナミックダンパーを内蔵させるという画期的な機構で、ピストンそのものの振動（ノック振動）を打ち消す役割を果たす。振動が目立ちやすい発進時、緩やかな加速時のディーゼルノック音を抑制し、より静かでフィーリングのいいエンジン音を実現している。さらに遮音材の適正配置、高剛性ボディなどにより、CX-3 の静粛性は想像以上の高いレベルに達している。



段付エグジシェイブピストン

ダイナミック性能-MT・4WD設定



走破性と燃費性能を高次元で両立



SKYACTIV-MT

マツダが一貫して追求してきた「運転する楽しさ」を実現するダイナミック性能の高さにも注目したい。クリーンディーゼル、スカイアクティブ-DI1.5は小排気量ながら可変ジオメトリターボチャージャーなどにより2.5ℓガソリン車なみのパフォーマンスを発揮し、6速ATもしくは6速MTとの組み合わせにより、人馬一体の操縦性を実現している。このクラスでは数少ないMT車のラインアップを歓迎する人も少なくないだろう。4WDシステムはドライバーの意図や刻々と変化する路面状況を的確にとらえる前輪スリップ予測検知システムを採用。雪道など滑りやすい路面はもちろん、水たまり通過時なども最適の駆動力をタイヤへ伝達し、ロスを減らすとともに高い操縦安定性を確保してくれる。

ちょうどいいボディサイズ、収納

全長4275mm、全幅1765mmのボディは大き過ぎず、小さ過ぎずで取り回しやすさと存在感を両立し、立体駐車場にも駐車可能な1550mmの全高も街中の利便性確保に貢献している。最低地上高は160mmが確保され、雪道や未舗装路でも不安なく走ることができる点も見逃せない。コンパクトなボディながらリアの荷室スペースは5人乗りの状態で350ℓ（DIN方式、サブトランク含む）の容量が確保され、さらに2Wayカーゴボードの採用により上下2段に分けて使うことも可能。6:4分割可倒式シートバックとあわせて活用することで、大きなものや長尺物の積載もこなすことができる。大型ペットボトルを収納できるドアポケットなど、室内の収納スペースも充実している。



350ℓの使いやすい荷室空間



サブトランク



ドアポケット

パッケージングとドライビングポジション

コンパクトながら優れたパッケージングで居住性や使い勝手のよさを確保している点も見逃せない。乗員の着座位置にこだわり、前席は理想的なドライビング環境を提供するとともに、快適で余裕のある空間を確保。後席は着座位置をやや高めにして前方を見やすくし、さらに前席シートバックやヘッドレスト形状の工夫により開放感を高めている。的確なドライビングポジションを得るためにステアリングとシートの調節幅を確保し、運転席に座って自然に足を伸ばした位置にペダル類を配置。正確な運転操作を可能とすることで安全性の向上にも貢献している。また、運転中に操作するシフトノブやコマンダーコントロールなどの位置や操作性にも配慮し、注意力が散漫となることを防いでいる。



SKYACTIV-DRIVE



コマンダーコントロール

都市部でスマートに使える立体駐車場対応の低全高

